

報告事項 1（周知・報告）

平成 27 年度全国学力・学習状況調査における大阪府の結果概要について

標記について、別紙のとおり報告する。

平成 27 年 9 月 3 日

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、支援学校小学部第6学年の全児童＜大阪府（公立）実施数 1,006校 73,174人＞
中学校第3学年、支援学校中学部第3学年の全生徒＜大阪府（公立）実施数 470校 70,738人＞

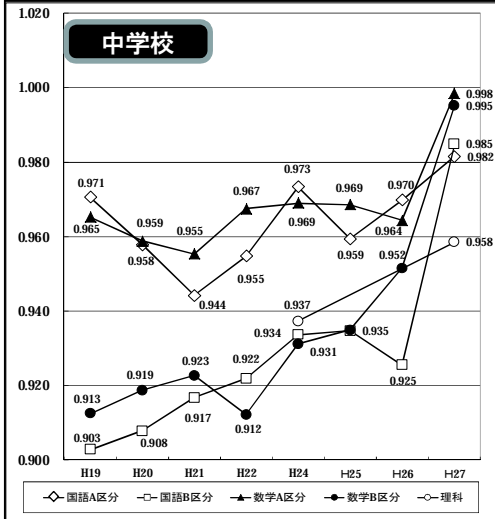
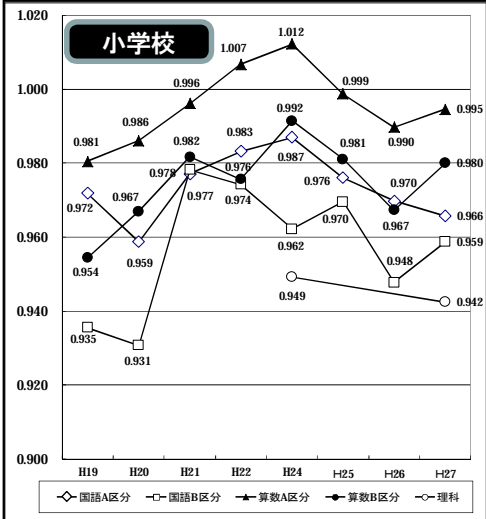
(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）
 - ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）
 - ・理科については「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う。
- ② 質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
- (4) 実施日 平成27年4月21日（火）

校種・教科・区分別 正答率比較／対全国比経年比較

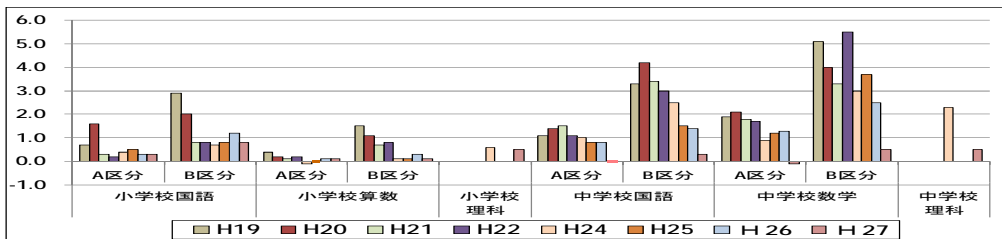
※H22、H24は抽出調査

Table with columns for school type (小, 小算, 小理, 中, 中算, 中理) and rows for subjects (国語A, B, 算数A, B, 理科) across years H19 to H27. It shows percentage scores and differences from the national average.



校種・教科・区分別 無解答率 対全国差経年比較

Table showing the percentage of unanswered questions for elementary and middle schools across subjects and years (H19 to H27). It compares Osaka Prefecture's performance with the national average.



(1) 学力調査結果の概要

小学校については、国語B区分、算数A・B両区分に改善が見られた。国語A区分には改善が見られず、全国との差が拡大した。理科については、前回（H24）より全国との差が拡大した。
中学校については、国語・数学のAB両区分に改善が見られ、特に、数学については全国水準となった。理科については、前回より改善は見られたものの依然として全国との差は大きい。

○ 平均正答率の全国との差

小学校： 最小－0.4ポイント 最大－3.5ポイント
中学校： 最小－0.1ポイント 最大－2.2ポイント

○ 無解答率の全国との差

小学校：改善傾向が続いており、全国水準となった。
中学校：大きく改善し、全国水準となった。

(2) 学習状況調査結果の概要

○ 小中学校とも、教育活動が改善

全国学力・学習状況調査等の結果を、学校全体で教育活動の改善のために活用した小中学校が増加し全国を上回った。また、教職員が、研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映した学校が増加した。

○ 授業における子どもの主体的な学習活動が増加

小学校では、授業中、「自分の考えを発表する機会がある」、「話し合う活動をよく行っている」と回答した子どもの割合が全国水準となった。中学校では、改善が進むものの、全国との差が大きく、更なる取組みが必要。

○ 授業がわかる子どもが増加

小中学校ともに、国語、算数・数学の授業がよく分かる子どもの割合は概ね全国水準である。理科においては、全国との差が大きく、更なる取組みが必要。

○ 家庭における学習に課題

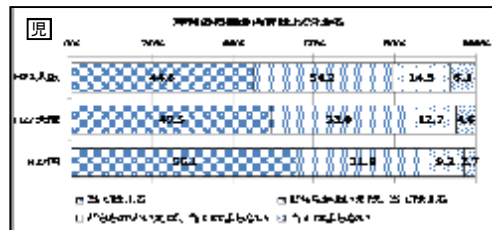
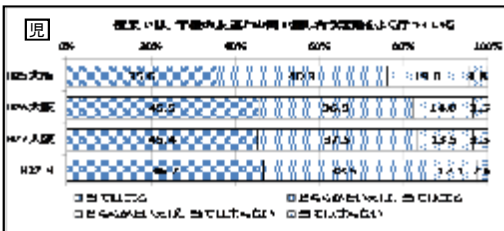
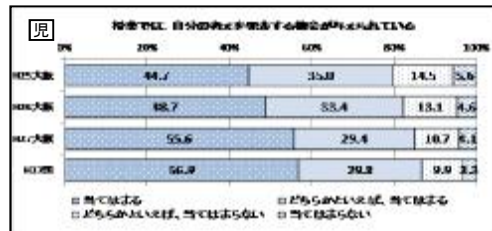
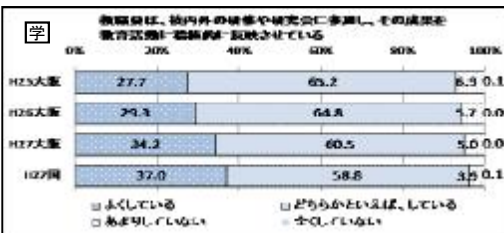
授業以外の学習時間が、30分未満の子どもについては、依然として全国との差が大きく、更なる取組みが必要。

○ 落ち着いた学習環境の学校が増加

小中学校とも、学習規律の維持・徹底に取り組んだ学校が増加した。また、授業が落ち着いたと回答した学校が増加した。

小学校

学...学校質問紙調査 児...児童質問紙調査



中学校

学...学校質問紙調査 生...生徒質問紙調査

